

The Snail's Grief

There lived a snail. One day the snail noticed an important thing.
“Though I haven’t noticed it until now, my shell on the back is full of grief. What am I to do with this grief?” .

The snail went to the friend and said,

“I can't live anymore.” .

“What's up?” the friend asked.

“How miserable I am! My shell on the back is full of grief.” The snail said.

The friend answered,

“You are not the only one. My back is also full of grief.”

Thinking it was no use staying there any longer, the snail went to another friend.

The friend also said,

“You are not the only one. My back is also full of grief.”

The snail went to another friend.

Though the snail visited one friend after another, any friend said the same thing.

At last the snail realized,

‘Everyone has grief. I am not the only one. I must endure my grief to live a life.’

This is how the snail stopped mourning over the grief.(2017.11.1)



でんでんむしのかなしみ

一匹のでんでんむしがいました。

ある日、そのでんでんむしは大変なことに気が付きました。「私は今までうっかりしていたけれど、私の背中の殻の中には悲しみが一杯つまっているのではないか。」この悲しみは、どうしたらよいのでしょうか。

でんでんむしは友達のでんでんむしの所に行きました。「私は、もう生きていられません。」とそのでんでんむしは友達に言いました。

「何ですか？」

と友達のでんでんむしは聞きました。

「私は、なんという不幸せなものでしょう。私の背中の殻の中には、悲しみが一杯詰まっているのです。」と初めのでんでんむしが話しました。

すると友達のでんでんむしは言いました。「あなたばかりではありません。私の背中にも悲しみが一杯です。」

それじゃ、仕方ないと思って、始めのでんでんむしは、別の友だちの所へ行きました。すると、その友達も言いました。

「あなたばかりじゃありません。私の背中にも悲しみが一杯です。」

そこで、始めのでんでんむしはまた別の友だちの所へ行きました。

こうして友達を順々に訪ねて行きましたが、どの友達も同じことを言うのでありました。

とうとう初めのでんでんむしは気がつきました。

「悲しみは、誰でも持っているのだ。私ばかりではないのだ。私は、私の悲しみをこらえていかなきゃならない。」

そして、このでんでんむしはもう嘆くのをやめたのです。

